<u>新約聖書とその思想</u> ―パウロ研究 (4) —

S. Ashina

<前回>オリエンテーション

・テキスト:

Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, Deutsche Bibelgessellschaft, 28.Aufl, 2012.

Kurt Anders Richardson,"Schleiermacher and Romans", in: Daniel Patte and Cristina Grenholm (eds.), *Modern Interpretations of Romans*, Bloomsbury, 2013.

Cranfield (ICC) などの注解書

- 演習予定: 10/5, 12, 19, 26, 11/2, 9, 16, 30, 12/7, 14, 21, 28, 1/11, 18
- 1. オリエンテーション・打ち合わせ:10/5
- 1'. 導入:10/12
- 2. 基本箇所の読解+注解書:10/19 ~ Rom.3.1-
- 3. 研究文献 → 分担し発表する。

<導入>

(1) ローマの信徒への手紙 (新共同訳)

第1章

◆挨拶

1:1 <u>キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから</u>、——2 この<u>福音</u>は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、3 <u>御子</u>に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。5 わたしたちはこの方により、その御名を広めて<u>すべての異邦人を信仰による従順へと導くために</u>、恵みを受けて<u>使徒</u>とされました。6 この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。——7 神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

◆ローマ訪問の願い

8 まず初めに、イエス・キリストを通して、あなたがた一同についてわたしの神に感謝します。あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです。9 わたしは、御子の福音を宣べ伝えながら心から神に仕えています。その神が証ししてくださることですが、わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、10 何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています。11 あなたがたにぜひ会いたいのは、"霊"の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。12 あなたがたのところで、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいのです。13 兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。ほかの異邦人のところと同じく、あなたがたのところでも何か実りを得たいと望んで、何回もそちらに行こう

と企てながら、今日まで妨げられているのです。14 わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。15 それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。

◆福音の力

16 わたしは<u>福</u>音を恥としない。福音は、<u>ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者</u> <u>すべてに救いをもたらす神の力</u>だからです。17 福音には、<u>神の義が啓示</u>されていますが、 それは、初めから終わりまで<u>信仰を通して実現される</u>のです。<u>「正しい者は信仰によって</u> 生きる」と書いてあるとおりです。

◆人類の罪

18 不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から 怒りを現されます。19 なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからで す。神がそれを示されたのです。20 世界が造られたときから、目に見えない神の性質、 つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。 従って、彼らには弁解の余地がありません。21 なぜなら、神を知りながら、神としてあ がめることも感謝することもせず、かえって、むなしい思いにふけり、心が鈍く暗くなっ たからです。22 自分では知恵があると吹聴しながら愚かになり、23 滅びることのない神 の栄光を、滅び去る人間や鳥や獣や這うものなどに似せた像と取り替えたのです。24 そ こで神は、彼らが心の欲望によって不潔なことをするにまかせられ、そのため、彼らは互 いにその体を辱めました。25 神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに造られた物を拝 んでこれに仕えたのです。 造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です、アーメン。 26 それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるも のに変え、27 同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうし で恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。28 彼らは神 を認めようとしなかったので、神は彼らを無価値な思いに渡され、そのため、彼らはして はならないことをするようになりました。29 あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意に満ち、 ねたみ、殺意、不和、欺き、邪念にあふれ、陰口を言い、30 人をそしり、神を憎み、人 を侮り、高慢であり、大言を吐き、悪事をたくらみ、親に逆らい、31 無知、不誠実、無 情、無慈悲です。32 彼らは、このようなことを行う者が死に値するという神の定めを知 っていながら、自分でそれを行うだけではなく、他人の同じ行為をも是認しています。

第2章

◆神の正しい裁き

2:1 だから、<u>すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、</u>実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。2神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになると、わたしたちは知っています。3 このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。4 あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。5 あなたは、かたくなで心を改めようとせず、神の怒りを自分のために蓄えています。この怒りは、神が正しい裁きを行われる怒りの日に現れるでしょう。6 神はおのおのの行いに従ってお報いに

<u>なります。</u>7 すなわち、忍耐強く善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠の命をお与えになり、8 反抗心にかられ、真理ではなく不義に従う者には、怒りと憤りをお示しになります。9 すべて悪を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、苦しみと悩みが下り、10 すべて善を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。11 神は人を分け隔てなさいません。12 律法を知らないで罪を犯した者は皆、この律法と関係なく滅び、また、律法の下にあって罪を犯した者は皆、律法によって裁かれます。13 律法を聞く者が神の前で正しいのではなく、これを実行する者が、義とされるからです。14 たとえ律法を持たない異邦人も、律法の命じるところを自然に行えば、律法を持たなくとも、自分自身が律法なのです。15 こういう人々は、律法の要求する事柄がその心に記されていることを示しています。彼らの良心もこれを証ししており、また心の思いも、互いに責めたり弁明し合って、同じことを示しています。16 そのことは、神が、わたしの福音の告げるとおり、人々の隠れた事柄をキリスト・イエスを通して裁かれる日に、明らかになるでしょう。

◆ユダヤ人と律法

17 ところで、あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、18 その御心を 知り、律法によって教えられて何をなすべきかをわきまえています。19-20また、律法の 中に、知識と真理が具体的に示されていると考え、盲人の案内者、闇の中にいる者の光、 無知な者の導き手、未熟な者の教師であると自負しています。21 それならば、あなたは 他人には教えながら、自分には教えないのですか。「盗むな」と説きながら、盗むのです か。22 「姦淫するな」と言いながら、姦淫を行うのですか。偶像を忌み嫌いながら、神 殿を荒らすのですか。23 あなたは律法を誇りとしながら、律法を破って神を侮っている。 24 「あなたたちのせいで、神の名は異邦人の中で汚されている」と書いてあるとおりで す。25 あなたが受けた割礼も、律法を守ればこそ意味があり、律法を破れば、それは割 礼を受けていないのと同じです。26 だから、割礼を受けていない者が、律法の要求を実 行すれば、割礼を受けていなくても、受けた者と見なされるのではないですか。27 そし て、体に割礼を受けていなくても律法を守る者が、あなたを裁くでしょう。あなたは律法 の文字を所有し、割礼を受けていながら、律法を破っているのですから。28 外見上のユ ダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。29 内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく"霊"によって心に施された <u>割礼こそ割礼なのです。</u>その誉れは人からではなく、神から来るのです。

第3章

3:1 では、ユダヤ人の優れた点は何か。割礼の利益は何か。2 それはあらゆる面からいろいる指摘できます。まず、彼らは神の言葉をゆだねられたのです。3 それはいったいどういうことか。彼らの中に不誠実な者たちがいたにせよ、その不誠実のせいで、神の誠実が無にされるとでもいうのですか。4 決してそうではない。人はすべて偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。「あなたは、言葉を述べるとき、正しいとされ、/裁きを受けるとき、勝利を得られる」と書いてあるとおりです。5 しかし、わたしたちの不義が神の義を明らかにするとしたら、それに対して何と言うべきでしょう。人間の論法に従って言いますが、怒りを発する神は正しくないのですか。6 決してそうではない。

もしそうだとしたら、どうして神は世をお裁きになることができましょう。7 <u>またもし、</u>わたしの偽りによって神の真実がいっそう明らかにされて、神の栄光となるのであれば、なぜ、わたしはなおも罪人として裁かれねばならないのでしょう。8 それに、もしそうであれば、「善が生じるために悪をしよう」とも言えるのではないでしょうか。わたしたちがこう主張していると中傷する人々がいますが、こういう者たちが罰を受けるのは当然です。

◆正しい者は一人もいない

9 では、どうなのか。わたしたちには優れた点があるのでしょうか。全くありません。 既に指摘したように、<u>ユダヤ人もギリシア人も皆、罪の下にある</u>のです。10 次のように 書いてあるとおりです。「正しい者はいない。一人もいない。11 悟る者もなく、/神を探 し求める者もいない。12 皆迷い、だれもかれも役に立たない者となった。善を行う者は いない。ただの一人もいない。

13 彼らののどは開いた墓のようであり、/彼らは舌で人を欺き、/その唇には蝮の毒がある。

- 14 口は、呪いと苦味で満ち、
- 15 足は血を流すのに速く、
- 16 その道には破壊と悲惨がある。
- 17 彼らは平和の道を知らない。
- 18 彼らの目には神への畏れがない。」

19 さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。20 なぜなら、<u>律法を実行することによっては、だれ一人</u>神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

◆信仰による義

21 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義 が示されました。22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべて に与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。23 人は皆、罪を犯して神の 栄光を受けられなくなっていますが、24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、 神の恵みにより無償で義とされるのです。25 神はこのキリストを立て、その血によって 信じる者のために罪を償う供え物となさいました。 それは、今まで人が犯した罪を見逃し て、神の義をお示しになるためです。26 このように神は忍耐してこられたが、今この時 に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義 となさるためです。27 では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。ど んな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による と考えるからです。29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもな いのですか。そうです。異邦人の神でもあります。30 実に、神は唯一だからです。この 神は、割礼のある者を信仰のゆえに義とし、割礼のない者をも信仰によって義としてくだ さるのです。31 それでは、<u>わた</u>したちは信仰によって、律法を無にするのか。決してそ うではない。むしろ、律法を確立するのです。

(2) ローマ書の構成

松木治三郎『ローマ人への手紙 翻訳と解釈』日本基督教団出版局、1966年。

「まず、教会への挨拶」(1-7)

「つぎに、手紙を書く理由」(8-15)

「さいごに、主題とテキスト」(16-17)

「この短いまえがきの中に、根本的には、すでにこの手紙で言おうとしているすべて のことが、言われている。したがってここにパウロの、そして新約聖書の、歴史的に も神学的にもきわめて重要な、言語と概念がでてくる。」(57)

- B.「第一編 信仰による神の義」(1・18-4・25) 神の義を、
 - 「一 人間の罪と神の審き」(1・18-3・20)
 - 「1 神の怒りの下にある異邦人」 $(1 \cdot 18 32)$
 - 「2 すべての人間の審きとその規準」(2・1-16)
 - 「3 審きの下にあるユダヤ人」(2・17-3・8)
 - 「4 神の前に罪責を負う人間」(3・9-20)
 - 「二 キリストにおける神の義の啓示として、説明し」(3・21-31)
 - 「三 その聖書証明を試みる」 $(4 \cdot 1 25)$
- C.「第二編 人間と世界における神の義・救いの実現」(5・1-8・39)

「第三編 イスラエルの躓きにおける神の義」(9・1-11・36)

「第四編 信仰による人間の生活」(12・1-15・13)

 $[15 \cdot 14 - 16 \cdot 27]$

3. まえがきの意義

アガンベン『残りの時 パウロ講義』岩波書店。

- 「パウロス・ドゥーロス・クリストゥ・イエースゥ、クレートス・アフォーリスメノス
- ・エイス・エウアンゲリオン・テウ」(10の言葉)

「パウロ、僕=奴隷、救世主イエス」

- ・「救世主イエスの僕として召され、神の福音を告げるために使徒として選び分かたれたパウロ」(cf. 「召されて使徒となった救世主イエスの僕」)
- ・「サウル」・「大いなる者」(サウロス、王家の名)と「パウロ」・「小さい、取るに足らない」(使徒がメシア的な召命を十全に引き受ける瞬間に与えられるメシア的な渾名。姓ではない)。王家から賤民へ。
- ・メシア的な僕と定められた瞬間に、奴隷と同様に、名前を失って、たんなる通り名で呼ばれねばならない。使徒である前にまずもって奴隷
- ・パウロが知っているのは、イエス・キリストという名前の人物ではなく、救世主のイエス、イエスという救世主なのだ。「何千年にもおよぶ習性は、クリストスという言葉を翻訳しないままにしてきたことによって、ついにはパウロのテクストから「メシア」という語を消滅させる結果となってしまった」(26)

「「クリストス」という語のもともとの意味についてのわたしたちの忘却をパウロのテクストに投影しているだけだ」(30)